

みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第10号



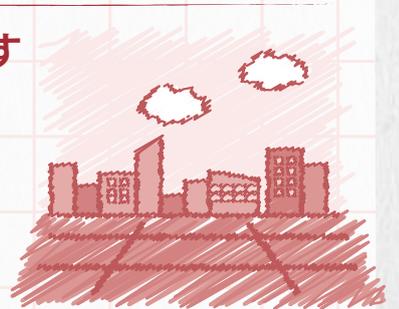
◀「進捗状況は町内住民に
随時流すようにしていま
す」と皆さんへの配慮を
忘れません

今月の
ひと

住民の、新浜への思いを冷静な視点で束ねる 新浜復興の会 世話人会代表

移転・現地再建、全ての仲間を尊重して活動を進めています

生まれ育った岡田・新浜を離れずに暮らしたいという遠藤芳広さん。
「野良仕事をしながら、遠くに仙台市街が眺められる環境が好きだった」と言います。
新浜の景色が震災で一変し、現在は「新浜復興の会」の世話人会代表を務めています。
会合では若手が多い移転再建グループと年配者が多い現地再建グループ
両者の意見をまとめ、新浜独自の現地復興計画の策定や行政への要望などを行っています。
「どちらのグループでも復興に対する気持ちを持続するためには
『5年後10年後には、こうありたい!』という夢を持つことが必要。
その上で今後の新浜は、多重堤防や津波避難施設は元より、野球場などの運動施設が復旧し、
地域資源を活かせる道の駅のような施設も出来れば、新浜の魅力が増し
住みたいと思う人が増えるのでは?」と、遠藤さんは一歩先の姿を心に描いています。
震災から1年半が経過し、今後の身の振り方などの判断を一層迫られるなか、
移転再建グループは移転先の協議を開始し、
現地再建グループは仮設集会所の設置に向けて動き始めました。
両者共に多くの課題を抱えながらも、互いの思いを尊重しつつ復興の歩みを進めています。



2012

9月

南蒲生の、いま

七北田川

県道塩釜巨理線

新たなまちづくりに向かって歩みだしている岡田・南蒲生地区。移転を考えようとしながら元の土地で農作業をする方、再建に向けて現地準備を進めている方、お住まいに戻って生活をしている方など、行き交う人がずいぶん増えてきました。真夏の南蒲生で出会った方々から、ご自身の現状や地域の皆さんへのメッセージなどをうかがいました。イラストマップを添えてご紹介します。

5

鈴木しのさん

50~60代のころ、畑で作った野菜を二十人町とかにリヤカーで行商に行ったの。「朝茶のんでがい」と、お得意さんのお宅にいつも呼ばれてました。昔は「朝茶はその日の難を逃れる」と言われて、皆、朝茶を呼ばれたら断らないの。今はね、毎週土曜日に利用してるデイサービスが楽しみ。引き算や掛け算、漢字に仮名をふる宿題を出されるのがうれしい。



4

庄司 春一さん

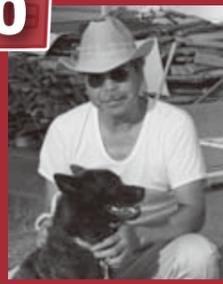
大きな庭石は流されたのに、不思議なもので、うちのコンコン(お稲荷)さんの土台は流されなかった。今は屋根と土台だけの状態なんだけどさ。今までは月に2回お供えをしていたけど、震災後は休んでるんだっチャ。自宅はコツコツ修繕して住める状態になったんだ。作業小屋にはツバメの巣が4カ所あって、今朝は33羽も居たんだっチャ。



6

こたま 兒玉 勤さん

震災でバイクのショールームの屋根の上に置き去りにされた「従業員(人形)」を使って、その時々私の気持ちを代弁してもらっている。ビール片手だったり、ひざまづいたりね。飼馬にまたがって蒲生海岸に行ったことや、七ヶ浜町の菖蒲浜まで遠泳したのも昔のことになったね。今は片付けの日々。町内の皆は暑くても仕事や作業に打ち込んで、元気あるよねえ。



侍の墓
5~6人の侍のもの。近所の方々が草取りやお供えをしていました。

Beer's Bar Impact
昨年5月から営業を再開し、地元の方々の交流の場として幅広く活用されています。

この辺りにも、自宅を修繕して戻ったお宅が増えました

吉田淑子さん宅の稲荷大明神
吉田家の母屋西側に祀られています。木製でしたが朽ちてきたので、3年ほど前に石造りにしました。吉田家のご先祖は、江戸時代に伊達家の弓の指南をしていたそうです。

鈴木盛男さん宅の田んぼの神様 オダイニチサマ(大日如来)
古くは鈴木さんのご先祖が購入した港南の田んぼにあった石碑。現在は自宅敷地内に移しました。旧暦の10月8日にお神酒、餅をお供えして、家長は羽織袴でお参りしたとか。古くから地域にある7軒に祀ってあるそうですが、他の家のオダイニチサマは無事でしょうか…。

食事処子工 震災後、2ヵ月余りで営業を再開。地元の方だけでなく復旧作業に関わる方々の食事処としても強い味方です。

岡田会館 震災後も地域のさまざまな会合やイベント会場として活用されています。新たに掲示板が設置されましたので、情報収集にお役立てください。

足利寛さん宅の五社明神
足利さん宅の西側にある氏神さまで、旧暦9月9日に赤飯や料理を漆器に盛って供え物をして祀っています。元々こちらの敷地は小太刀の師範として伊達家に仕え450石を領した田母神氏の屋敷でした。

街灯
地域全体に街灯が設置されましたが、震災による道の起伏が目立つので、夜間の通行は気を付けましょう。

この辺りに釣り人がちらほら

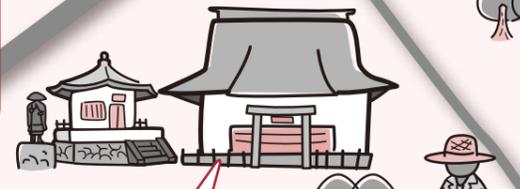
中島さん宅の井戸と畑
南蒲生では、昔からどのお宅にも井戸が設けられていましたが、震災被害で、中島さんともう1軒のお宅は埋めてしまいました。生活用水として現在も利用している数軒のお宅を除いては、手つかずのままにあるようです。また、中島さんのように、自宅敷地の畑で農作物を作るなど、春先から畑で作業する方が目立つようになりました。

公衆電話
震災後に新しくなっています。

水路に水の流れ少しあり

消防 器具置き場

震災の爪痕はまだ色濃く残るもの、すでに居住しているお宅にはひまわりなどの花が咲いて周辺を彩る光景も見られました。また夕方は、犬の散歩をしている方、畑の作物に水やりをしている方をよく見かけました。水の溜まった水路に、カヤザリガニが群れをなしていたのには驚きです。景色が変わってしまった南蒲生地区ですが、二瓶屋敷や田母神屋敷の存在、氏神さまにお供えをする風習など、若い世代へ長く語り継いでいきたいものです。



専能寺



兒玉さんの店の人形

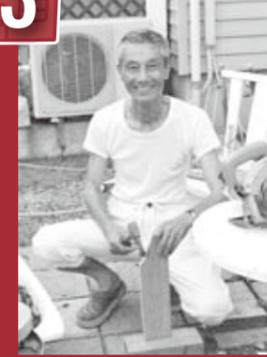
阿部勇さん宅の大型バス
バス好きの阿部さん。このバスでさまざまな場所に家族や仲間と出掛けています。非常時に備え、車内には備蓄品も収納されています。

阿部英記さん宅の蔵
この蔵は土蔵だったものを阿部さんの父親が白壁に塗り直したのですが、津波被害に遭ったため修繕し、さらに塗り直しました。建物の骨組み自体は健在で、築300年ほどになります。

3

小林 賢造さん

震災で居久根がほとんど消えてしまい、緑豊かだった地域の景観が味気ないものになってしまいました。昨年6月には妻と自宅へ戻り、得意な日曜大工の腕を活かして、根気強く修繕作業を続けながら住んでいます。大工さんに頼む家の中の修繕工事は、ずいぶん先になる予定です。30数年前、ここに移り住んだ時に植えた桜の木が、震災から我が家を守ってくれました。



1

吉田 源志さん

プレハブ仮設住宅に妻と愛犬とで入居中です。日中は南蒲生の自宅と畑があった場所に来ることが多いね。緑の中にいて、自然の風にあたりながらコツコツと畑作業をするとスッキリすんだ。田んぼは行政の指導でまだ耕運してないね。若い方々が部落の復興に一生懸命努力してるようだから、我々も影ながら一生懸命応援しねえな、と思ってます。



2

米山紗与さん、米山卓都くん、みかん

いつもみかんの散歩を2人でしています。震災前は、夏休みに仙台新港に遊びに行きました。今は友だちと岡田小学校のプールに行ってます！うちは昔、駄菓子屋さんをやってたから地元の人皆知ってる。岡田はいいところ！周りの人がもっといいいな。



このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



◀新婚さんのように仲が良い勝行さんとまつ子さん。月に1度は2人で外食を楽しみます

第5回

平山勝行さんご一家(中野・港)

勤務先の事務所で避難生活

ダンプ業を営む平山勝行さんは中野・港出身です。震災当日、勝行さんは仕事で松森の現場、妻のまつ子さんは遠見塚の勤務先でそれぞれ被災しました。夜半に勝行さんはまつ子さんと合流して、一緒にまつ子さんの勤務先へ避難しました。一方自宅には、昨年2月に生まれた孫と里帰り中の次女がいましたが、白鳥の勤務先から姉が車で駆けつけて一緒に避難し、一家はお互いの無事をメールで確認。まつ子さんの勤務先の社長の計らいで、2ヵ月半は事務所の一部を借りて避難生活を送り、中野栄の借り上げ民間賃貸住宅へ移りました。

“お内裏様とお雛様”が皆さんの来訪をお待ちします

燃料の問題で、勝行さんが仕事を再開できたのは昨年6月ごろから。主に震災関連の業務で忙しい日々が続いています。「ウチ(港)の町内会の繋がりは強いね。情報交換もするし」と、まつ子さんが明るく語れば、「偶然この辺(中野栄)には地元だった人が多く引っ越してきて、震災前よりも一緒に集まる事が多くなったな」と、勝行さんが続けます。今年、長女も結婚して2人で暮らす勝行さん夫妻は、まるで2度目の新婚時代を過ごすよう。「お内裏様とお雛様のように、並んでご飯を食べるのね」と語りながらも、沈んでいる方が多いことも心配するまつ子さん。震災後の生活は、勤務先やその近所、友人など多くの方々からいただいた家具や衣料、生活用品で整いました。その感謝を日々忘れず明るく過ごす夫妻にとっての宝物は、2人の娘から贈られた写真とメッセージ。「パパとママの子どもで幸せ、ありがとう」

次回は平山さんご夫妻から紹介された
中野地区の方にご登場いただく予定です

読者からひとこと

●ここ、和田の阿部酒屋には何十年も飲みに来てるんです。店主の八重ちゃんにはお世話になってるのよ。津波の時も、「頑丈だからここの屋上に来い」って言われて助かったんだよね。今は我慢して苦労して暮らしている人も多いよね。皆、言いたいことはたくさんあるはずだけど、昔のように仲良く暮らせることを願っているよ。
横浜さん 高山さん

みらいん編集部 取材ダイアリー

7月 8月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

19日(木) 中野小学校「特別音楽授業」 (中野栄小学校体育館)



仙台市出身の津軽三味線奏者・浅野祥さんと和太鼓グループYakara(やから)の2名が中野小学校を訪問。「和楽器の演奏をじかに鑑賞し、音楽の美しさ、楽しさ、感動する豊かな心情を育成する」ことを目的に、全校生徒が楽しみ、交流を図りました。演奏前、音楽主任の大宮先生が「聞」と「聴」の漢字を用いて意味の違いを子どもたちへ説明した内容も印象的でした。「耳と目と心を十分に使って聴きましょう」



19日(木) 編み会 (福田町南1丁目公園仮設住宅集会所)



この日は、自治会の皆さんが集まってエコタワシの発送準備に大忙し。「明日、札幌に2000個送るの」と國松静子さん。こちら以外にも、港南西公園、岡田西町公園の仮設住宅の編み会の皆さんが、それぞれ作ったものを合わせてようやく2000個に達しました。2週間の中で暇をみつめて、せっせと編んだというエコタワシは色鮮やかで使いやすそうです。活用されることを願う皆さんです。

30日(月) 新造船が到着(高砂船だまり)



仙台市で震災後初となる新造船2隻が、「大安吉日」、広島県の造船所から到着しました。鈴木としみさんの「岸丸」と小畑順一さんの「順海」は、9月上旬から再開するアカガイ漁に向けて準備を整えます。船だまりで出迎えた県漁協仙台支所運営委員会委員長の伊藤新造さんは、「8月にできる中古船3隻を含めると、ほぼ震災前と同じ規模に戻る。仙台市でも漁師が頑張っていることを地道にでも浸透させていきたい」と、期待を寄せていました。

8月11日(土) 夏祭り (仙台港背後地6号公園仮設住宅駐車場)



仮設住宅の自治会と蒲生町内会の共催で夏祭りが開かれました。水ヨーヨーで遊ぶ子ども達の姿や、ビールを飲みながら談笑する大人の姿など、あちらこちらで久しぶりの再会を喜ぶ光景が見られました。また、七夕おどりの音色に合わせて参加者の皆さんが楽しげに踊りを舞い、ゆっくと夏の夜が更けていきました。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体で話し合われている内容についてお知らせします。

南蒲生復興部

個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、町内会から権限の委譲を受けて、移転・現地再建グループがそれぞれ話し合いを進めています。

8月2日(木) 移転再建・現地再建希望者の集まり

内容 ●住民からの質問に対し、区画整理課担当からの回答
●移転再建・現地再建、各グループに分かれての意見交換

当日の様子 現地再建グループは、リーダーに就任した阿部勇さん、我妻正一さんの2人が中心となって意見交換をしました。様々な意見が出る中、まずは住む人達の安全確保が先決だとの共通認識でまとまりました。移転再建グループのリーダーは遠藤林治さん。それぞれが移転希望地を紹介しあうと、新たな候補地である上岡田・久保野、平柳地区希望者が半数を占めることが分かりました。



▲現地再建グループからは「内水被害をなんとかしなくては」という声が上がりました

また、まだ決めかねている方も多く見られましたが、その理由は移転先の具体的な費用が不明瞭なため。早く落ち着きたいという声も漏れます。今後は住み良い移転地にするべく、意見を出していくことに加え、行政への要望を同時進行で進めていく方向で話し合いが持たれます。

問い合わせ先:代表 芳賀正 090-4042-9464
事務局会議:毎週水曜日 18:30~ 岡田西町公園仮設住宅集会所
住民説明報告会:毎月最終日曜日 岡田会館

新浜復興の会

住民の心の復興、迅速な情報提供、今後も安心して新浜に住み続けられる地域づくり、移転を決断した仲間を尊重する、といった活動方針に沿って運営しています。

8月11日(土) 第19回世話人会議

内容 ●現地再建グループの意見交換会(8月4日)の内容報告
●移転再建グループの集い(8月5日)の内容報告
●アンケート実施に関して、設問項目の確認

当日の様子 移転再建グループは、新たな候補地として名前の挙がっている「上岡田・久保野、平柳地区」を移転先と見据え、実現に向けての第一歩を踏み出しました。グループのリーダーとなった瀬戸健介さんからは、「8月5日の会合では多くの参加者から『自ら動いていこう』という前向きな意志が感じられた。今後は南蒲生地区など、新浜地区以外の移転希望者も交えて会合を進めていく予定です」との報告がありました。一方、現地再建グループの復興まちづくりは、今後町内会と連携して進められます。

問い合わせ先:代表 遠藤芳広 090-2020-4002
世話人会:毎週土曜日 18:00~
福田町南1丁目公園仮設住宅集会所

中野小学校区復興対策委員会

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

8月5日(日) 第26回中野小学校区復興対策委員会

報告事項 (4町内会から)
●西原:第1日曜定例「西原町内会説明会(第14回)」を、行政側も出席して実施。住民から、地震被害にのみ対応する国の現行制度について、津波被害にも対応すべく見直すべきとの要望や質問がなされた
●和田:今年4月から3ヵ月に1度実施している住民意見交換会の2回目を実施した。次回は10月21日の予定

(行政側から)
●「蒲生北部地区の再整備に関する説明会」を7月30日から4日間にわたり実施
○4日間で計408名が参加
○防災集団移転促進事業と土地区画整理事業は別の事業。土地区画整理事業の実施は、防災集団移転促進事業の後となる
●申出書を取りまとめた内容を住民へ送付済み
●移転候補地の上岡田、田子候補地については確保予定面積の変更に伴い、地権者への説明を予定

●9月の「防災集団移転促進事業に関する説明会」では、「移転先概要の変更点」「移転先宅地の決定方法」「復興公営住宅」などについて示す予定

当日の様子 「蒲生北部地区の再整備に関する説明会」について、委員会側が問題視する点や住民の理解に誤解が生じている可能性のある点などに関して、行政側と質疑応答がなされました。その他として、「被災した農家が、災害危険区域に指定されていない農地を購入して宅地に転換することは可能か」との質問が出ましたが「農地の種類や、そこにどのような法規制がかかっているか」など、確認すべき項目が多岐に渡るため、あらためて仙台市都市整備局開発調整課へ相談したほうがよいとの助言がありました。

問い合わせ先:委員長 高橋寛 022-258-3068
定例会議:毎月第1、第3日曜日 16:00~
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

被災地レポート

取材地 夢メッセみやぎ (仙台港地区)

施設に押し寄せ大津波
助け合いの心で無事に避難

東北最大級の展示場「夢メッセみやぎ」で、震災後初のイベントとなる「とうほく自動車フェスタ」が七月二十〜二十九日に開催されました。このフェスタで、夢メッセは震災から一年四ヶ月ぶりの復活を果たしました。



夢メッセみやぎ敷地内の建物屋上に避難するイベント来場者ら（夢メッセみやぎ提供）

昨年三月十一日の震災発生時は、仙台放送が中心になって開催したイベント「グルメコロシアム」の初日。平日の昼間ながら、会場には約千人がいました。津波がいつ襲ってくる



家族連れでにぎわう「とうほく自動車フェスタ」の会場

のか分らない緊迫した状況のなか、来場者やイベント関係者らは展示場に隣接する事務棟に逃げ込みました。避難時には来場者同士が助け合う姿があちこちで見られました。「いかつい外見の若い人が、車いすの高齢者を運んでいたんですよ」と、夢メッセを管理するみやぎ産業交流センターの岡野博総務課長が振り返ります。

近くの港から大津波が押し寄せ、事務棟1階は完全に浸水。ガラス張りの建物には大量の車が突き刺さってしまいました。しかし、地震と津波による犠牲者は出ませんでした。

震災後初のイベントの後は 全国から施設予約が殺到

建物周辺のガレキは震災から一ヶ月ほどで目立つ部分は片づけられ、復旧工事が着々と進められました。夢メッセ周辺は、仮設住宅建設に向けて資材置き場となり、住宅支援の一翼を担うことにもなりました。建物が完全復旧したのは、今年六月末。今回の自動車フェスタ開催直前まで工事が続き、一階から二階に移された新事務所内の整理もままならない慌ただしい状況のなか、準備は急ピッチで進められました。

復旧までの一年四ヶ月間、八十近くのイベントがキャンセルされました。復旧日が確定すると、全国のイ

ベント主催者から予約が殺到し、年度末まで週末は埋まっている状態にまで「復活」しました。「うれしい悲鳴をあげています。震災を理由に離れてしまったイベント主催者はいませんでした。むしろ復旧を『待ってました』という感じで、皆戻ってきてくれたんです」と、佐々木さんは笑顔を見せます。

自動車フェスタ会場には、クラシックカーから、未来の車まで約百十台が所狭しと展示され、来場者は写真を撮ったり、車内をのぞきこんだりして楽しんでいました。屋外には、はたらく車の試乗体験コーナーがあり、夏休みの家族連れが行列をつくりました。津波被災の爪痕を感じさせない盛況ぶりでした。

夢メッセみやぎには、これからも人々の夢が集まり、仙台港地区復興の要となっていくでしょう。



みやぎ産業交流センターの岡野博・総務課長（左）と佐々木憲男・事業課長

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

ハンドケアボランティア募集

被災女性の団体によるボランティア活動です。午前中にプロの講師によるハンドケア法を学び、午後から被災された方にハンドケアを実践します。

対象 18歳以上でボランティア保険加入の方
時・場所 ▼9月12日(水)石巻市万石浦公園仮設住宅 ▼9月17日(月・祝)仙台市あすと長町仮設住宅 ▼9月19日(水)石巻市開成地区第11仮設住宅 ▼9月22日(土・祝)石巻市大橋仮設住宅 ▼9月25日(火)仙台市仙台港背後地6号公園仮設住宅 ▼9月29日(土)石巻市大森地区第2仮設住宅
申込方法 ホームページ申込フォームより
問 090-4887-1977 杜の都チームドルフィンドリーム(天野)
Web: <http://www.dolphindream.jp/idta/1000project.htm>

仮設住宅出前講座

内容 「せんだいつるしびな」をつくろう!
高砂地域は「せんだいつるしびな」の発祥地。2回目の来仙となる茂村先生が、作り方を指導します。
時 9月7日(金)10:00～
場所 高砂市民センター(宮城野区高砂1-24-9)
対象 仮設住宅や借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方

内容 人形劇を楽しもう
地元ボランティアサークルが人形劇を披露します。ほのぼのとした懐かしさを感じてください。
時 9月28日(金)10:00～
場所 仙台港背後地6号公園仮設住宅集会所
対象 仙台港背後地6号公園仮設住宅にお住まいの方
問 022-258-1010 高砂市民センター

赤い羽根 地域ボランティア活動支援事業 第4次応募の受付を開始します

宮城県共同募金会では赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業として、東日本大震災被災地の地元住民グループなどによるボランティア活動を支援する助成金の第4次応募を受け付けます。

対象 宮城県で地元住民のグループなどによる、助け合い活動を行う住民団体やボランティアグループ、NPO法人など、県民5名以上で構成される非営利団体

対象事業例 ①引越し・片付け、見守り訪問などの生活支援活動②季節の行事、住民交流などのサロン活動③子どもの学習支援や一時預かりなどの子ども支援

配分金額 1団体1回につき10万円まで

応募受付期間 第4次応募：10月1日(月)～10月31日(水)必着。助成決定11月下旬

応募方法 各団体から市町村共同募金委員会を通じ申請します。仙台市内の団体は下記にお問い合わせください
問 022-223-2026
仙台市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係

健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)

対象 どなたでも参加できます
時・場所 各仮設住宅集会所

▼高砂1丁目公園 9月28日(金)10:00～、10月3日(水)10:00～ ▼鶴巻1丁目東公園 10月2日(火)13:15～ ▼福田町南1丁目公園 9月17日(月・祝)10:00～、10月1日(月)10:00～ ▼岡田西町公園 9月11日(火)13:30～、9月27日(木)10:00～、10月9日(火)13:30～ ▼港南西公園 10月5日(金)10:00～ ▼仙台港背後地6号公園 9月19日(水)10:00～ ▼扇町1丁目公園 9月21日(金)13:30～ ▼扇町4丁目公園 9月12日(水)10:00～、10月10日(水)10:00～
問 022-291-2111(内線6782、6784)宮城野区家庭健康課健康増進係

出前講座を行っています(無料です)

東北財務局では、お近くの集会所や市民センターなどにお伺いし、金融犯罪被害に巻き込まれないよう、日ごろから心がけてほしいことなどを、分かりやすく説明する出前講座を行っています。お気軽にお問い合わせください。

対象 どなたでも利用できます
講座メニュー ・未公開株や社債などのあやしい投資勧誘
・ヤミ金融や振り込み詐欺
・私的整理ガイドラインや多重債務相談など
問 022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)東北財務局 金融監督第三課(青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階)

深沼海岸清掃ボランティア募集

深沼海岸の歴史のお話を聞いた後、深沼海岸の清掃を行います。参加するボランティアを募集中です。

時 9月16日(日)9:00～14:00
七郷市民センター1階和室集合(若林区荒井字堀添65-5)
用意するもの 軍手、携帯ラジオ(お持ちの方)、昼食など。ケガ対策・熱中症対策などは各自お願いします
※ボランティア保険は要事前加入
問 090-3385-5567NPO法人みやぎ災害救援ボランティアセンター/KIDS NOW(長山)

東北厚生年金病院の健康講話

地域の方々が明るく健康な生活が送れるよう、東北厚生年金病院が健康講話を開催しています。参加無料。

時 毎月第2・4水曜日 13:30～14:30
場所 東北厚生年金病院 2階 大会議室

内容 9月12日(水) 第70回記念講演「寝たきりにならないためにできること!～新たな概念 ロコモケアを中心に～」(整形外科部長)

9月26日(水) ①「頭のリハビリテーション 脳のトレーニング」(作業療法士)、②「「防災対策」自分の身は自分で守る!」(看護科長)

問 022-259-1221 東北厚生年金病院 庶務課

こころ編

悲しくも業縁のままに

地震も津波も集中豪雨も竜巻も、ただの自然現象です。それが災害と化するのにはそこに人間が住むからです。海に出て漁を生業とする人は海辺に住み、農耕に従事する人は氾濫の度に田畑が肥える河川の傍に住みます。その方が便利だからです。かつて先祖がそのために犠牲になつたといふ史実があつたとしても、津波や洪水が怖いからと云つて山側の高台に暮らすわけには行かないのです。

田舎の寺は、どこもそんな先祖伝来の土地に不条理さを感じつつも、慎ましかに暮らす民衆と共にありました。寺は今、被災された方々の心の、そして身の支へになつてゐるでせうか。寺族の三人もが津波にさらはれ、お檀家衆も沢山亡くなり、本堂も庫裏も墓所も跡形もなく消失。それでも四箇月後のお盆には、プレハブの仮説教所を急ぎ建てて法要を勤め上げた真宗寺院が気仙沼にあります。日頃の親密な檀家と寺の関係が目には浮かびます。皮肉にも、現存してゐる日本仏教のほとんどが天災や疫病や内戦や大火や飢饉で、我が国の歴史上最悪と云はれた鎌倉時代にこそ誕生してゐるのです。

徳照寺 住職 佐藤和丸

佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

1	2	3	4		
			C		
5		6	7		
		8			9
			B		
10	11			12	13
14				15	
				F	
	16				17
	E				D
19			20		
			A		

タテのカギ

- ①これから収穫の秋。宮城米の代表的な品種といえば
- ②ネコが研いだり、ひっかいたり
- ③カレー粉の原料、黄色の染料、漢方薬などになる草
- ④かつての大河ドラマ『〇〇の木は残った』のゆかりの地である柴田町。町の木も、〇〇の木
- ⑦仙台市の熱気あふれる一大イベント、みちのく〇〇〇〇まつりは、10月6～7日の開催
- ⑧アルカリ性の反対は、〇〇性
- ⑨角田市の木。堅くて、ドングリの実がなります
- ⑩塩釜水産物仲卸市場内で食べる、マイ〇〇〇〇丼は観光客に大人気
- ⑬仙台市の木。定禅寺通りにある並木でおなじみ
- ⑮俗に、〇〇〇は損気
- ⑯〇〇字は歓迎され、〇〇星は嫌がられます。同じ色が入りますが

ヨコのカギ

- ①〇〇〇〇は発明の母
- ④蔵王町で梨と並ぶ名産のくだもの。町の花も、〇〇の花
- ⑤9月15～16日、〇〇市で開催される、とよま秋まつり
- ⑥カレンダーを日本語で
- ⑧宮城県ゆかりの民謡、祝い唄。『〇〇〇時雨』
- ⑩空母といえば、航空〇〇〇のこと
- ⑫9月1～2日に鳴子温泉郷で開催された、全国〇〇〇祭り
- ⑭柔道などで聞かれる、「〇〇に始まり〇〇に終わる」
- ⑮クルマや自転車でパンクするのは?
- ⑯渡る〇〇〇に鬼はない
- ⑰秋の代表的な花。富谷町の花にもなっています
- ⑱宮城県が国内最大の養殖産地。食卓でもおなじみの〇〇鮭
- ⑳名取駅から仙台駅を見た方向

前回のこたえ

A ス B イ C カ D ワ E リ

でした。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
オ	コ	ナ	イ	シ	ソ														
5	ド	ウ		6	カ	7	オ	8	ス										
	8	リ	9	ウ		10	コ	11	ウ	12	ヒ								
			12	ト	13	サ	14	フ			ヤ								
	14	ハ	15	リ		イ	16	ナ	17	シ									
		ナ			16	コ	17	ウ	18	タ									
		18	ビ	19	カ	20	シ	ネ		マ									

編集後記

岡田の鈴木さんのさんからうかがった、「朝茶はその日の難を逃れる」。不思議な魅力と説得力をもつ言葉です。朝茶をいただく少しのゆとりが、1日を気分よく過ごすコツなのですね。(芳賀)

福田町仮設住宅の平山まさ子さん宅にお邪魔して散髪してもらいました。夏に合うすっきりしたスタイルで涼しいです。さすが床屋を営んでいただけあってハサミさばきも見事でした。(おおが)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp